

資料2 「こころを高くあげよう」、Lift up your hearts! 略解

作成 2023-9-19 岡本雅幸

1. 作詞者

ヘンリー・モンタギュー・バトラー (Henry Montagu Butler, 1833-1918) という英国の牧師です。名門ハロウ校を経てケンブリッジ大学トリニティ校を卒業後、英国国教会の聖職、母校ハロウ校校長、女王付き牧師を歴任。1889年にはケンブリッジ大学副学長、1913年には国王付き牧師に就任するなどの逸材でした。この詩は、ハロウ校校長時代に同校礼拝堂で用いる聖歌集 HYMNS FOR THE CHAPEL OF HARROW SCHOOL の 1881 年版に収録され、その後 1903 年に THE PUBLIC SCHOOL HYMN BOOK に採用され広く普及しました。原詩の口語訳は由木康牧師 (1896-1985) に依ります。[1]

2. 作曲者

この讃美歌には二つの曲があり、後者が今日取り上げる曲です。最初に曲を付けたのはウォルター・グレートレックス (Walter Mansfield Greatrex, 1877-1949) という英国の音楽教師です。1888-1893 年ケンブリッジキングスカレッジの少年聖歌隊員でした。その後、ダービースクールとケンブリッジセントジョンズカレッジで教育を受けました。彼が作曲した Lift up your hearts はダービースクールの学校の賛美歌になりました。[2]

2 番目の曲は、アルフレッド・モートン・スミス (Alfred Morton Smith, 1879-1971) に依ります。

彼はペンシルベニア大学を卒業後フィラデルフィア神学校に学び、1905 年にアメリカ聖公会の聖職者に叙せられました。教区牧師を 10 年勤めた後、第 1 次大戦には従軍牧師としてフランス、ドイツに滞在。帰国後はフィラデルフィアの監督教会の牧師を 36 年間も勤めました。

1941 年にアメリカ聖公会聖歌集 HYMNAL が編集された時、スミスがバトラーの歌詞に付けて作曲したものが採用され、今日この讃美歌を私たちは歌っています。[1]

[1] 梅染信夫『頌むべきかな 讃美歌物語2』新教出版社 1994-11-20 P131-134 より抜粋、編集

3. この讃美歌について

原曲名 Lift up your hearts! は、ラテン語 sursum corda (汝の心をあげよ) の英訳です。

この句の出典は、「自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。」(哀歌 3:41 新改訳 2017) です。「神にむかって手をあげる」のは、哀歌が書かれた紀元前六世紀頃、神に祈るとき両手を天に向かって挙げ、天を仰いで祈った習慣からきています。

私たちの神様は、私たちがどのような状況下にあろうとも、「こころを高くあげよう」と呼びかけ励まして下さります。私たちは、ともすれば日常生活の中で心が疲れ弱り、また汚れがちです。だからこそ心を上げること、つまり神様から力を戴いて元気を出すことは、信仰生活の、そして礼拝の基本ですので、讃美歌第2編の最初に「心を高く上げよう」が収録されているのです。